

1. とうもろこしのシカゴ定期は、9月には350セント／ブッシェル台で推移していたが、受粉期の天候が改善したことや、10月12日発表の米国農務省需給見通しで、単収が上方修正されたことなどから軟調な展開が続き、11月9日発表の米国農務省需給見通しで、期末在庫が上方修正されたことなどにより、現在は340セント／ブッシェル台となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、9月には330ドル／トン台で推移していたが、10月12日発表の米国農務省需給見通しで、期末在庫が下方修正されたことなどにより上昇した。現在は、11月9日発表の米国農務省需給見通しに大幅な変更がなかったことから、350ドル／トン台となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、8月には40ドル／トン台で推移していたが、中国向け大豆や石炭などの輸送需要に加え、南米産穀物輸出が増加したこと、原油相場が堅調に推移していることなどから45ドル／トン台まで値上がりし、現在は40ドル／トンを超える水準となっている。
4. 外国為替は、9月中旬には109円前後であったが、年内の追加利上げ観測が高まったことなどから円安となり113円前後で推移した。現在は、米国の経済政策に対する先行き不透明感が高まったことなどから円高となり、111円台となっている。

